

～ 朱円周提墓が北海道遺産に認定されました ～

北海道遺産とは？

豊かな自然、歴史や文化、生活、産業など道内の有形・無形の財産の中から、次世代の引継ぎたい大切な宝として、道民参加により選ばれます。第1回選定は2年前の平成13年10月で25件が選ばれました。今回第2回選定として1,311件の候補の中から27件が決まり、北海道遺産は合わせて52件となりました。

オホーツク沿岸の古代遺跡群

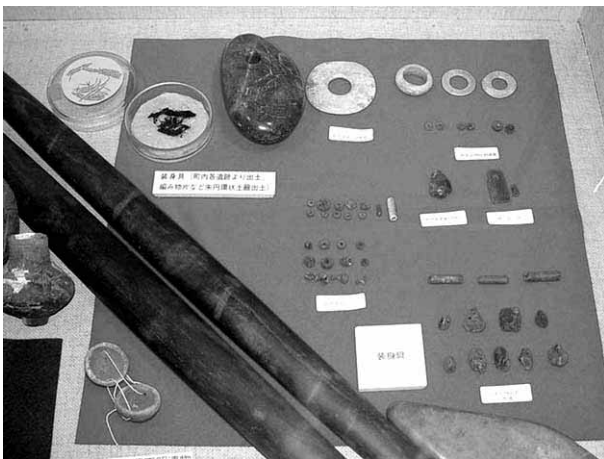
斜里町の「朱円周提墓」は「オホーツク沿岸の古代遺跡群」の一つとして北海道遺産に認定されたものです。「オホーツク沿岸の古代遺跡群」には朱円周提墓のほか網走市のモヨロ貝塚、常呂町の常呂遺跡、白滝村の旧石器時代遺跡が含まれ、この4市町村にそれぞれ認定証が授与されました。オホーツク海沿岸部や管内の内陸部には旧石器時代から縄文、続縄文、擦文、オホーツク文化、アイヌ文化まで各時代の遺跡が多数分布しています。その中で代表的な4遺跡が今回認定されました。



朱円周提墓（A号）

朱円周提墓

「朱円環状土籬」あるいは「朱円ストーンサークル」の名前でよく知られた朱円西区東1線にある縄文時代後期の遺跡です。この遺跡は、石積みのあるお墓の周りに土堤が環状に築かれているところから環状土籬と名付けられ、昭和32年に北海道指定文化財となりました。現在は他地域の同様の遺跡にならって「周提墓」という名称に変更されています。朱円周提墓は直径28・と32・の円形の土堤が2つあり、昭和23、24年に河野広道北海道教育大学教授（当時）によって発掘調査が行われました。この中からは人骨と土器、石棒や布、翡翠や琥珀の玉などの副葬品が発見され、特に炭化した織物は貴重な遺物として全国的にも知られています。これらの出土品は知床博物館内に展示されています。



朱円周提墓から出土した土器、石棒、副葬品など

網走管内の北海道遺産

管内で認定されている北海道遺産は「オホーツク沿岸の古代遺跡群」の他に北から「流水とガリンコ号」、「森林鉄道蒸気機関車雨宮21号」、「ピアソン記念館」、「ワッカ／小清水原生花園」の4件があります。道内各地では北海道遺産への認定機会に、自然や文化財を生かした地域づくり活動や、観光振興、地域間交流に結びつける試みがなされています。（中川元）

今年度の特別展が間もなく始まります。合地学芸員は最後の追い込みに入っているところです。是非、ご来館ください。特別展図録は次号お届け致しますので、もうしばらくお待ち下さい。

発行 斜里町立知床博物館協力会 2004.11.25
099-4113
北海道斜里郡斜里町本町49 斜里町立知床博物館内
TEL:01522-3-1256/FAX: 3-1257
<http://www5.ocn.ne.jp/~museumsp/>